

海外邦人安全対策情報（平成25年度第4四半期）

1. 社会・治安情勢

2012年6月のイエメン政府軍によるアル・カーイダ掃討作戦により、アル・カーイダは本拠地としていたアビヤン県の各都市から周辺諸州に逃走しました。その後も各地に潜伏するアル・カーイダ分子による政府軍・治安部隊施設等に対する自爆攻撃、軍・治安当局者の殺害及び誘拐、外国人に対する誘拐・殺害事件等のテロ活動を継続して行っています。

2013年3月18日に国民対話会議が開幕し、イエメン全土の警備体制が強化されたことから、アル・カーイダのテロ活動は一時下火になっていましたが、同年4月以降、ハドラマウト県・アビヤン県等でテロ活動を再開しています。またアル・カーイダは外国人誘拐事件への関与を続けています。アル・カーイダによる関与は不明ですが、本年1月～3月中にサヌア市内だけでもイラン人外交官殺害事件、ドイツ人（アラビア語学習者）誘拐事件、英国人（石油会社勤務）誘拐事件、英国人（教師）誘拐事件、チェコ人医師誘拐事件（同日中に無事解放）、オーストラリア人（国連職員）誘拐未遂事件、イタリア人国連職員誘拐事件（同日中に無事解放）などが発生しています。

2012年における政府軍及び治安部隊要員の殺害件数（内務省発表）は、首都サヌアで18件、ラヘジ県で15件、ハドラマウト県及びタイズ県で各々10件、ダーリア県で6件、アデン県、ベータ県及びアビヤン県等で7件でした。

また2012年にオートバイを使用した殺害件数（内務省発表）は、全国で66件のぼり、政府軍及び治安部隊要員を標的とした殺害事件の約95%がオートバイを使用したものであり、政府軍及び治安部隊要員40名、一般市民4名が殺害されるとともに、国軍及び治安部隊要員21名及び一般市民9名が負傷しました。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 当国における一般犯罪発生統計については、2012年版の統計資料が未発表のため、2011年版イエメン政府発表の一般犯罪発生統計に基づき、当国における凶悪犯罪を含む一般犯罪の現状につき、以下のとおりです。

2011（平成23）年中に発生した殺人事件発生件数は1393件（殺人未遂を除く）（前年比24%増）、強盗事件発生件数は471件（前年比7.5%減）、放火事件発生件数は254件（放火未遂を除く）（前年比15.1%減）、強姦事件発生件数は145件（強姦未遂を除く）（前年比27.5%減）、誘拐事件発生件数は220件（前年比35%増）、窃盗（住居等侵入）事件発生件数は2049件（前年比18.7%減）、窃盗（自動車盗）事件発生件数は1182件（前年比20.2%増）となっています。殺人、誘拐などの凶悪犯罪及び自動車盗の発生件数が激増していることがわかります。人口10万人当たり換算した一般事件発生率では強盗、放火、強姦事件は日本と同程度ですが、殺人事

件については日本の約6倍、誘拐事件については日本の約8倍と、いずれも日本に比べて高い発生率となっています。一方、窃盗（住居等侵入）事件発生率は日本の約12分の1、自動車盗事件の発生率は日本の約4分の1です（警察庁刑事局刑事企画課発表、平成23年1月～12月分犯罪統計資料【確定値】に基づく）。また当国の特徴の一つとして、銃器が市民に広く浸透しており、これら銃器がイエメン人同士の争いに使用されるケースが多々存在することから十分な注意を要します。2013年に入り、イエメンの将来の方向性を決定づける国民対話会議が3月18日から開会し、それに伴い、治安当局による昨年以上の重層的な警備体制が敷かれていることもあり、一般犯罪発生件数は横ばいまたは減少傾向になるとみられていますが、引き続き注意を要する治安状況です。

（2）平成26年1月～3月中の邦人被害にかかる事件は発生していませんが、外国人に対する誘拐・襲撃事件が昨年10月ごろから急増傾向にあり、これまで欧米人を主要ターゲットとしていると思われてきましたが、昨年12月の日本大使館員襲撃事件に代表されるように、欧米人以外でもこれら被害に遭遇する可能性が格段に増してきていると言えます。過去に邦人が巻き込まれた犯罪例としては、邦人に対して親しげに話しかけ、観光案内資料の購入を持ちかけ、後になって法外なガイド料を要求したり、当国の治安当局関係者であると装って近づき、一瞬の隙を見て財物を窃取する等の事件及び女性に対する痴漢事件等が報告されています。以上の点から、誘拐事件未然防止のため、個人旅行者は、親しげにすり寄ってくる現地人には絶対に近づかない、応じないという断固たる姿勢が重要です。また他の事例として、当地の比較的安価な価格のホテルに投宿した邦人旅行者が就寝中、突然何者かが同人居室に侵入し、所持品を窃取されるという事案も発生しています。部屋の出入口ドアの施錠等についても細心の注意が必要です。なお、平成26年4月14日現在、当国全土に渡航自粛・退避勧告が発令されています。

（4）当地の交通事情については、車両最優先であり、2011（平成23）年中のイエメン政府発行の交通事故統計資料によれば、交通死亡事故による死者数は2152人（前年比27.3%減）であり、日本と比べて人口10万人あたり約2倍となっています（日本における2011（平成23）年中の交通事故死亡者数は4612人）。交通マナーはほぼ皆無であり、信号無視、速度超過、通行区分違反（逆走）、右左折時の方向指示器不使用等の交通違反は枚挙にいとまがありません。道路を通行する際には、細心の注意が必要です。

3. テロ・爆弾事件発生状況（平成26年1月～3月）

（1）1月6日、アデン県マンスーラ地区において、マンスーラ警察署付近に仕掛けられた爆弾が爆発しました。死傷者はありません。

（2）1月9日、アデン県ムアッラ地区の検問所において、プラスチック製袋に入った爆弾が発見されました。爆発物処理班が爆破3分前にタイマーを止めたため負傷者はありませんでした。軍又は警察車両を狙ったものと見られています。

(3) 1月10日、ベイダー県ミシュアブ地区において、アル・カーイダ構成員が、車に乗車した第26旅団の軍人を襲撃し、軍人1名が死亡、1名が負傷しました。犯人は逃走しています。

(4) 1月11日、ハドラマウト県ムカッラ市中央刑務所において、同刑務所を襲撃した武装集団と治安部隊との間で衝突が起き、軍人7名が負傷しました。

(5) 1月7日、ハドラマウト県タリム地区において、武装した部族集団がマシラ油田とダッバ港を結ぶパイプラインを破壊しました。

(6) 1月8日、シャブワ県庁舎を何者かがRPG及び手榴弾で襲撃し、同建物が損壊しました。

(7) 1月11日、サヌア市50メートル通りにおいて、爆弾が発見されました。同事件後、ハッダ水工場付近で爆弾が爆発しました。いずれも負傷者はありません。

(8) 1月11日、サヌア市サンハン地区のカート市場において、爆弾が発見されました。

(9) 1月12日、サヌア市南部シエメイ地区において、駐車中のムフセン・ナキーブ通商副大臣(GPC)の車両に爆弾を取り付けられましたが、爆破前に市民が同爆弾を発見したため難を逃れました。

(10) 1月13日、アデン県ダール・サアド郡において、警察車両置場付近の木の間に爆発物(TNT 1kg)が発見されました。

(11) 1月13日、アデン県において、覆面をした4名のアル・カーイダ構成員が、ムアッラ警察署裏の塀を乗り越えて進入し、それに気がついた警備員と衝突が起きましたが、4名は逃走しました。

(12) 1月14日、ハドラマウト県において、イエメン経済公社セイユーン支店部長アブドルガニー・アブドル・ムカーレハ大佐が、バイクに乗った武装集団に銃撃され死亡しました。

(13) 1月14日、シャブワ県ラドゥーム郡アザーン地区において、バイクに乗車した武装集団が沿岸警備隊員を射殺した。

(14) 1月16日、ベイダ県ラダーウ市において、アル・カーイダ構成員が、軍拠点を攻撃し、兵士6名及びアル・カーイダ構成員13名が死亡しました。

(15) 1月16日、アデン市において、政治治安総局幹部(大佐クラス)が武装グループに襲撃され暗殺されました。

(16) 1月15日、ラヘジュ県都ホータ市において、アル・カーイダ構成員が政治治安総局支所を襲撃しました。

(17) 1月18日、ラヘジュ県ミラーフ郡において、政治治安総局幹部が武装した2人組によって殺害されました。

(18) 1月12日、イップ市において、バラードイ水工場長サラーハ・アブドル・ガニーが自宅寝室で何者かに銃撃されたが何を逃れました。犯人は逃走しています。

(19) 1月26日、ハドラマウト県ワディ・アイン地区において、刑事捜査官アハマド・

アミールが車（ハイラックス）に乗った武装集団により銃殺されました。犯人は逃走しています。

（20）1月21日、国民対話メンバーのアハマド・シャラフディーン（ホーシー派のリーダー格）が、国民対話会議に向かう途上の、サヌア市チュニジア通りとカイロ通りの交差点において、車（ハイラックス）に乗車した武装集団4名に銃殺されました。犯人は逃走しています。

（21）1月21日、サヌア市サフル通り（別名モガデシオ通り）において、イスラーハ党事務局長アブドル・ワッハーブ・アーニシの息子、オマルの車に取り付けられた爆弾が爆発し、同人が負傷しました。

（22）1月21日、ラヒジュ県フータ市において、ラヒジュ県知事顧問のムハンマド・ラージフが、車に取り付けられた爆弾の爆発により重傷を負いました。

（23）1月21日、シャブワ県において、部族により石油パイプラインが爆破されました。

（24）1月24日、サヌア市ニハム地区において、GPCのリーダー、アハマド・ディルハム・シャリーフの車が、部族系武装集団により銃撃されました。

（25）1月25日、サヌア市アーザール区ノクム地区において、地方議会事務局長の自宅を何者かが襲撃し、1名が負傷しました。

（26）2月2日、サヌア市内国防省付近において、バスが爆発し2名が負傷しました。

（27）2月2日、アビヤン県の第111旅団キャンプにおいて、3台の車に乗車したアル・カーイダ構成員が同キャンプを襲撃しました。死傷者はありません。30日にアビヤン県マフファド郡を無人機が空爆したことへの復讐とみられています。

（28）2月2日、ダーリウ県において、TNT火薬を積んだ車が政府機関庁舎に向けて突き進んできたため、警備の兵士が同車を銃撃しました。同車は建物から150メートルのところで爆発し、同車の運転手が死亡、警備の兵士3名が爆発の破片により負傷しました。

（29）2月2日、アデン県特別治安組織の作戦副隊長アリー・ナーセル・ムハンマド大佐が、出勤途上、自動車に取り付けられた爆発物の爆発により負傷しました。

（30）2月2日、サヌア市ハッダ通りクマイム・ショッピングセンター付近（フランス大使館付近）において、爆発が発生し、複数名が負傷しました。

（31）2月3日、最高治安委員会は、治安組織が2日夜にサヌアに向けて発射された2発のカチューシャ・ロケットBM21の発射台をサヌア州サンハーン郡及びホーラーン郡の中間地点で発見し、3基目が発射準備されていたので、事前に阻止したと述べました。

（32）2月3日、アデン県ホウル・マクセル郡において、アデン州警察刑事捜査担当次長アワド・ダハブール中佐が、出勤途上で何者かに車を遮られ、機関銃で銃撃されて、負傷しました。犯人は逃亡しています。

（33）2月4日、サヌア市ダール・サルム地区において、空軍のイスラーハ中央局に属

するバスに取り付けられていた爆発物が爆発しました。同バスには通勤途中の軍人18名が乗車しており、少なくとも軍人2名が死亡、13名が負傷しました。

(34) 2月5日、アデン県クルーフ郡において、武装集団が職場へ向かっていた政治治安総局ナーセル・シャキーリ大佐の車を銃撃しました。同大佐の隣に座っていた息子が負傷しました。

(35) 2月5日、シャブワ県ラドゥーム郡ナシーマ地区において、車に乗車したアル・カーイダ構成員がガス会社ベルハーフ社の警備に当たっていた特別治安組織の車を急襲し、軍人4名が死亡、9名が負傷(うち4名重傷)しました。

(36) 2月5日、アデン県の5月22日公園において、同公園の警備に当たっていた部隊長が、バイクに乗車した男2名により銃殺されました。

(37) 2月5日、アビヤン県マフファド郡において、部族とアル・カーイダ構成員との間で衝突が発生しました。負傷者がいる模様です。

(38) 2月6日、マアリブ県シルワーフ郡ハバーブ地区において、石油パイプラインを爆破しようとした部族系武装集団と軍の間で衝突が起き、軍人2名及び武装集団の1名が負傷しました。

(39) 2月6日、マアリブ県マアリブ市において、第107旅団の軍人1名が、車に乗車した武装集団に銃撃され死亡しました。

(40) 2月7日、シャブワ県ベルハーフ港にあるイエメンガスの偵察機が、同社から9km離れた場所において、ミサイルと爆発物を発見しました。

(41) 2月8日、ハッジャ県ハラド郡において、国内避難民キャンプの運営委員長が乗車した車を武装集団が銃撃し、同委員長の運転手が負傷しました。

(42) 2月12日、アデン県第39機甲旅団駐屯地周辺の退役パイロット住居近くにおいて、何者かが設置した爆発物が爆破しました。

(43) 2月12日、アデン県ムアッラ市警察署前において、自爆テロが発生しました。

(44) 2月13日、サヌア市内北部ジラフ地区(ハサバ地区と空港の中間、ホーシー派サヌア本部に近い)にあるサヌア中央刑務所において、自動車爆弾を使って塹を破壊し突入しようとしたアル・カーイダ構成員と刑務所警備隊、治安部隊との間で激しい銃撃戦が起きました。銃撃戦で治安部隊側7名が死亡しました。混乱に乗じてアル・カーイダ構成員19名を含む囚人29名が壊された塹から逃走しました。

(45) 2月15日、マアリブ県にあるサヌア県境の検問所において、車2台に乗車したアル・カーイダ構成員が同検問所を襲撃し、軍人1名が重傷を負いました。

(46) 2月10日、ラヘジュ県フータ市において、アル・カーイダ構成員が公道脇に設置した爆発物が爆破しました。爆破は公道を通過予定であったラヘジュ県知事及び地方議会議長を狙ったものと見られています。

(47) 2月10日、サヌア市内において、サイラ道路に仕掛けられた爆発物が発見されましたが、治安部隊が不発処理しました。

(48) 2月13日、サヌア市内南部シュメイラ地区において、ごみ箱に仕掛けられた爆発物が発見されましたが、専門家により不発処理されました。

(49) 2月15日、アデン県アデン市において、車に乗車した武装集団が製油所を襲撃しようとしたところを、軍が未然に取り押さえました。

(50) 2月19日、マハラ県の警察署を武装集団が銃撃し、軍人1名が死亡しました。犯人は逃亡しています。

(51) 2月22日、シャブワ県アタク市において、武装集団が政治治安総局の大佐を自宅前で銃殺し、車を強奪しました。

(52) 2月23日、軍及び治安組織は、ラヒジュ県フータ市及びその他県内の地域において、軍・治安関係施設に対してテロ行為が行われるという情報を入手したため、厳戒態勢をとりました。

(53) 2月23日、マアリブ県シルワーフ郡ラマダ地区において、部族系武装集団が石油パイプラインを爆破しようとしていたため、第312旅団が阻止しようとしたところ、部族が発砲し銃撃戦が発生しました。軍人1名、部族1名が負傷しました。

(54) 2月22日、ハドラマウト県ムカッラ市において、同市中央刑務所を武装集団が銃撃しました。これを受け、同23日、同刑務所周辺において特別治安部隊が厳戒態勢をとりました。

(55) 2月22日、サヌア市内ズベイリ通りにある第2旅団の検問所において、車に乗車した武装集団と軍との間で銃撃戦が発生しました。武装集団は逃走し、負傷者はいませんでした。

(56) 2月22日、アデン県にある大統領宮殿近くの入国管理局において、同建物目がけてバイクに乗った何者かが手りゅう弾を投げ、歩行者1名が負傷しました。

(57) 2月22日、サヌア市シュウーブ地区において、イエメン人ビジネスマンの車の下に取り付けられたタイマー付爆発物(TNT75グラム)が発見され、未然に処理されました。

(58) 2月24日、シャブワ県アタク市において、特別治安部隊司令官(大佐級)及びその随員が乗った車が通行中、何者かが道に設置していた爆発物を爆発させました。負傷者はいませんでした。同爆発物は携帯電話を起爆装置としていました。

(59) 2月24日、ハドラマウト県シャヒル郡において、バイクに乗車した武装集団が同郡刑事捜査局次長が職場から帰宅するところを銃撃しました。同次長が銃で応戦したところ武装集団は逃走しました。

(60) 2月26日、ハドラマウト県ムカッラ市南部において、バイク(ナンバー無し)に乗車した2名の男が、政治治安総局補佐官をレストランで銃撃し殺害しました。犯人は逃走しました。

(61) 2月26日、ラヒジュ県タババン郡ビイル・アムル地区において、軍事情報機関を武装集団が銃撃しました。同機関の警備員が応戦したため、武装集団は逃走しました。

(62) 2月26日、ラヒジュ県において、バイクに乗車した武装集団が、同県の社会保護事務所長の車を銃撃しました。犯人は逃走しました。

(63) 2月27日、マアリブ県シルワーフ郡ハバーブ地区において、部族系武装集団が石油パイプラインを爆破しました。

(64) 2月28日、アビヤン県において、自動車工により第111旅団の将校の車の座席下に設置された3つの爆発物が発見され、爆発物処理班により未然に取り外されました。

(65) 2月28日、シャブワ県アタク地区において、特別治安組織の車付近で爆発物が爆発し、軍人1名が負傷しました。

(66) 3月1日、タイズ県タイズ市において、何者かが警察署の前に置いた爆発物入りの箱を治安組織が撤去しました。箱には雷管が備え付けられており、撤去したのは爆破直前でした。

(67) 3月2日、ラヒジュ県フータ市において、武装集団が警察署を銃撃し、同署警備員との間で銃撃戦が発生しました。軍人1名が負傷しました。

(68) 3月2日、ダーリウ県ダーリウ市において、武装集団が軍事施設を攻撃し、軍との間で銃撃戦が発生しました。3名が負傷しました。

(69) 3月2日、ベイダ県リダーウ市において、バイクに乗車した武装した男2名が、歩行中の同郡警察署長（大佐）及び刑事捜査課長（中佐）を銃撃し、大佐が死亡、中佐が重傷を負いました。

(70) 3月2日、サヌア市サブイーン地区において、車（ナンバー無し）に乗車した武装集団が経済軍事機関事務局長の自宅目がけて手りゅう弾を投げ逃亡し、家屋が損壊しました。

(71) 3月4日、内務省はテロ対策部隊に対し、サヌア市内において、テロ実行のために武装した集団が乗車したトラックが潜入しているとの情報を入手し、厳戒態勢をとるよう命じました。また、サヌア市の各警察署長や治安機関に対して、箱を積んだトラック（車種：トヨタDYNA）が3日にズベイリ通りをうろついているのが目撃され、同トラックには指名手配犯が乗っているの、速やかに捕らえるようメモが送付されました。

(72) 3月4日、シャブワ県ルドーム郡において、第2旅団の基地をアル・カーイダ構成員が襲撃しました。同旅団へのアル・カーイダの襲撃は、今週2回目です。これにより、アル・カーイダの襲撃による同旅団の被害は、死者8名、負傷者11名となりました。

(73) 3月4日、ラヒジュ県フータ市において、第201旅団とテロ集団（ヌスラ・イスラム戦線を自称）との間で銃撃戦が発生し、特別治安組織の大佐1名、テロリスト5名が負傷しました。

(74) 3月4日、サヌア市内ズベイリ通りにおいて、不審なトラックが目撃されたのに続いて、5日、アル・カーイダ構成員が乗車し、爆弾を搭載した車両（ハイラックス）が市内アスバヒ地区で目撃され、関係部局に調査が指示されました。

(75) 3月5日、シャブワ県ルドーム郡において、軍第2歩兵旅団とアル・カーイダ構

成員との戦闘により、アル・カーイダ構成員2名が殺害され、10名が逮捕されました。

(76) 3月6日、サヌア空港近くにおいて、政治治安総局(P S O)幹部(大佐)がアル・カーイダ構成員によって殺害されました。

(77) 3月8日、アビヤン州ラウダルにおいて、アル・カーイダ構成員が、国軍第11旅団検問所に自爆襲撃を仕掛けましたが、軍部隊及び人民委員会が反撃し、襲撃は失敗しました。兵士2名が死亡したものの、アル・カーイダ側4名(サウジ国籍1名を含む)が殺害され、2名が逮捕されました。

(78) 3月8日、サヌア市内環状道路沿いの住宅地にあるアスマ女子学校周辺において爆発があり、駐車中の車等に物的損害が出ました。同日、サヌア市内ハッダ地区技術学校付近でも爆発があり、1名が負傷したほか、車数台が破損しました。

(79) 3月10日、マアリブ県とジャウフ県の間にあるハンジャル地区において、アル・カーイダ構成員が大量の武器及び軍用品を積んだ車を強奪し、いずれかへ逃走しました。

(80) 3月9日、イップ県ジャブラ郡警察署長の自宅前において、時限爆弾が発見され、爆発物処理班により未然に処理されました。

(81) 3月12日、サヌア市内ハッダ地区において、バイクに乗車した武装2人組が特別治安部隊幹部(大佐)を殺害しようとしたが、同幹部が反撃したため、2人組は逃走しました。

(82) 3月13日、ハドラマウト県アルカトン地区において、武装集団が軍人2名が乗車する車を止め、銃殺しました。

(83) 3月14日、アビヤン県において、アル・カーイダ構成員が第111旅団の基地目がけて迫撃砲を発射しました。これに関し、同旅団が重火器で応戦し、30分ほど銃撃戦が続きましたが、死傷者はいませんでした。

(84) 3月15日、アデン県において、政治治安総局大佐がクレーター地区からホール・マクサル地区へ向かおうとしていたところ、何者かに急襲され死亡しました。

(85) 3月15日、ハッジヤ県ハッジヤ市において、武装集団がG P C同県支部長の自宅を銃撃し、同宅が大破しました。

(86) 3月22日、ハドラマウト県ムカッラ市において、アル・カーイダ構成員が、第2管区司令官ムフセン・ナーセル・シャーイリ少将の住居を襲撃しました。同住居の警備員と交戦し、軍人1名及びアル・カーイダ構成員1名が負傷しました。

(87) 国防省の発表によれば、3月24日、ハドラマウト県マディ地区(ムカッラ市から120km)の検問所において、4台の車に乗ったテロリストが同検問所を襲撃し、特別治安組織の軍人20名が死亡しました。

(88) 3月22日、ラヒジュ県フータ市において、アル・カーイダ構成員が地方行政機関、政治治安総局、財務局の建物をR P Gで及び機関銃で襲撃し、警備の軍人が反撃しました。軍人3名が負傷し、建物が大破しました。

(89) 3月23日、サヌア市保険省西側において、バイクに乗車した武装集団2名が車

に乗車していた国防省大佐及びその息子を銃撃し逃走し、両名が負傷しました。

(90) 3月24日、シャブワ県ルドーム郡ナシーマ地区において、第2旅団の軍事基地をアル・カーイダ構成員が襲撃しました。軍が反撃したことにより、アル・カーイダ構成員複数名が負傷しました。軍側に死傷者はいませんでした。

(91) 3月24日、マアリブ県において、2台の車に乗車したアル・カーイダ構成員が同県北部県境の特別治安部隊所属の検問所を襲撃し、軍人2名が負傷しました。

(92) 3月26日、アデン県マンスーラ郡カーヒラ警察署付近において、軍人(中佐)が車に取り付けられた爆弾の爆発により死亡しました。

(93) 3月26日、アビヤン県アフワル郡において、アル・カーイダ構成員4名が第111旅団の車を襲撃し、軍人2名が死亡しました。

(94) 3月28日、アデン県アデン市において、警察署長(大佐級)の車の下に爆発物を取り付けようとしていた男が逮捕されました。また同人は逃亡するため、逮捕しようとした警察官に対して爆発物を投げました。

(95) 3月30日、アビヤン県アフル郡において、アル・カーイダ構成員が第111旅団の基地をRPGや迫撃砲で襲撃しました。軍人が反撃し、銃撃戦が発生しましたが、軍側に死傷者はいませんでした。この襲撃で、建物が一部損壊しました。

(96) 3月21日、内務省は、先週アビヤン県からアデン県アデン市に爆弾を積んだ自動車少なくとも2台入っており、同車による政府機関や外国施設を標的としたテロ攻撃が行われる可能性があるとして、各種治安機関に通告しました。

(97) 3月25日、ラヒジュ県フータ市において、市民がハディージャ学校及びザハラ学校付近において、ゴミ箱に入った3つの爆発物を見つけたと治安組織に通報し、爆発物処理班が爆発物を撤去しました。同市では2日前に「ヌスラ・イスラーム集団」が、両校に対して国際的団体が生徒の訓練を行っていることを理由に、女の子を両校へ行かせないようビラを配布しており、訓練が続く場合には両校を爆破すると脅迫していました。

(98) 3月26日、アビヤン県ラウダ郡において、人民委員会及び第115旅団が爆弾を積んだ車1台及びバイク1台が同県マフファド郡からラウダ郡に入ったとの情報を入手したため厳戒態勢をとり、市民に夜10時以降に自宅から出ることを禁じました。

(99) 3月28日、マアリブ県ワディ・アビーダ郡において、石油パイプラインが爆破されました。石油パイプラインの爆破事案は、この1週間で4件目です。

(100) 3月29日、ラヒジュ県ラブオス地区のガソリンスタンドのそばに爆発物を取り付けられているのが発見され、爆発物処理班が未然に処理しました。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況(平成26年1月～3月)

(1) 1月7日、サヌア市ワヒダ地区のアルジェリア通りにおいて、実業家アハマド・ローマニ氏の子息が軍服を着用した武装グループによって誘拐されました。

(2) イラン人外交官殺害事件の発生

1月18日朝、サヌア市シュメイラ地区において、当地イラン大使館の外交官（アブー・カーシム・アスディ、会計担当）が、車（ハイラックス）に乗車した武装集団に誘拐されそうになり、抵抗したところを銃撃され死亡しました。

（3）1月26日、イップ州市ヤリーム郡において、国民対話メンバーのムラード・ハサン・バリーム氏（社会党）が部族系武装集団により誘拐されました。

（4）2月3日、サヌア市ハッダ地区にあるハマーディ・スーパーマーケット前において、石油会社勤務のイギリス人（Robert Douglas）が誘拐されました。

（5）2月3日、サヌア市タイズ通りにおいて、武装集団がイエメン人ビジネスマン（ジャラル・ハムド・シャーティル）を同人の店からいずれかへ誘拐しました。

（6）2月6日、サヌア市中央郵便局の正門前において、2台の車に乗車した武装集団が大統領府の通訳ファーティカ・アブドッラー・ラダイニの行く手を塞ぎ誘拐しようとしたが、同郵便局の警備員が駆けつけたため犯人は逃走しました。

（7）2月6日、GPC常任委員会のメンバーであるアリー・アブドッラー・シャラフィの息子がサヌア市ハッダ地区において誘拐され、数時間後に発見されました。同人は拷問され意識を失った状態で発見され、200万リヤルのほか、拳銃と高額なジャンビーヤを奪われました。

（8）2月6日、イエメン人ビジネスマンであるムハンマド・ハーミリの息子を部族系武装集団が誘拐しました。

（9）2月12日、イギリス人語学教師がサヌア市内において何者かに誘拐されました。同氏は、2008年以来サヌア市内の語学学校AMIDEASTで語学教師を務めています。イギリス人教師はサヌアで誘拐されどこかへ連れ去られたと見られています。イギリス人の誘拐は10日間で2人目。

（10）2月9日、ジャウフ県税関事務次長の息子が部族系武装集団に誘拐されそうになり、抵抗したところ、銃撃され、死亡しました。

（11）2月15日、アデン県において、武装集団がイエメン人女性（同県クレーター郡出身、18歳）を誘拐しました。

（12）2月22日、車（ランドクルーザー）に乗車した3名の武装集団が、サヌア市内アザール病院で勤務するチェコ人医師（女性）をサヌア市内で誘拐しました。

（13）2月25日、車（ハイラックス）に乗車した武装集団が、ベイダ大学財務課長アブドッサラム・ジフリー（GPC）を同課長の自宅前から誘拐しました。

（14）2月17日、マアリブ県において、ランドクルーザーに乗車した武装集団3名が、ロシア人医師を勤務地である軍事病院から出て自宅に向かうところを遮り誘拐しようとしたが、市民が集まりそれを阻止しました。

（15）2月25日、サヌア市内ハッダ地区において、イタリア人国連職員（UNDP）誘拐事件が発生し、数時間後に解放されました。

（16）3月20日、サヌア市ハッダ地区ベイルート通りにおいて、車及びバスに乗車し

た8名の武装集団がNSB（国家治安庁）の将校（中尉）を誘拐しました。

（17）3月25日、ベイダ県ジー・ナーイム郡において、アル・カーイダ構成員が第26旅団の武器・軍事装備整備技術責任者の車を遮り、同人及び軍人1名（運転手）を誘拐しました。

5. 対日感情

対日感情は総じて良好です。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題

当地に現在日本企業は存在しません。

7. 日本人安全対策のためにとった具体的措置

（1）在留邦人に対しては、テロ等重大事件が発生する都度、メール及び電話を通じて、治安情報の提供及び安否確認を行っています。

（2）当地は現在渡航自粛・退避勧告が発出中であり、一般旅行者の来訪は想定されていませんが、それでもなお、自己責任の下で入国する邦人旅行客のことを視野に入れ、短期滞在者等が投宿する可能性が高い宿泊施設に対しては、日本人の宿泊利用があれば、即時に大使館に連絡するよう要請の上、連絡体制を構築しています。（了）